

今村復興大臣福島県訪問ぶら下がり会見録
(平成28年9月1日(木) 1600~1608 於) 福島復興局特別会議室)

1. 発言要旨

今日は9月1日でありますし、先般2,000日を発災以来迎えたというときであります。そしてまた、帰還困難区域の取扱いについての政府の方針も出たということで、一つの節目としてこちらに参りました。今日は3省庁の副大臣も一緒であります。そういう中で今日は内堀知事ともいろいろなお話をし、また、県の要望を伺ったところでもあります。そしてその後、この福島の復興総局のほうのメンバーとも、また新しく加わるほうのメンバーといろいろな話をして、今後とも一体となって、この再生のために頑張っていこうという志を一つにしたところでもあります。

具体的には、知事のほうからは、我々が御説明した後を受けられて4つの要望ということが出まして、いわゆる帰還困難区域の復興についてであります。1番目は市町村の復興の整備計画というもの、これを最大限に尊重してほしいということでもあります。それから2番目が、必要な予算を最後まで措置してほしいと、それから3番目が、必要な除染を確実に行ってほしいと、それから4番目に、復興拠点外も含めて帰還困難区域全体に関して市町村を是非支援してほしいというような話が出ました。

私からは、知事のおっしゃることはよく分かりましたと、今後、帰還困難区域の取扱いに関わる基本方針を、関係市町村長さんたちにもしっかり説明して、そして同じく県も同行していただいて、我が方も人を出して説明してまいりますと、そういったことでできるだけ現場に寄り添って、ステップを踏みながら着実にやっていきたいというふうにお答えいたしました。それを受けて、国の事務方のほうが、県にも同行いただいて、関係の市町村長さんのところに説明に行くということになってまいります。

概略、以上です。

2. 質疑応答

(問) 今日の会談の中で内堀知事から、国においては帰還困難区域の全ての地域の復興・再生に、最後まで責任を持って取り組んでいただきたいという発言があったと思うんですが、それを大臣としてどのように受け止めて、今後どのように取り組んでいくか、お聞かせいただけますでしょうか。

(答) その姿勢は我々もしっかりしていきたいと思えます。ただ、これは方法論になりますけれども、是非こういった拠点をまず整

備して、そしてそれを拡大していくということで、ステップ・バイ・ステップでしっかりとやっていくということでもあります。

(問) 今日のお話の中で帰還困難区域の中の復興拠点以外のところ、飯舘村だとか葛尾村だとかだと、なかなか山間部にあって、復興拠点さえ設定するのが難しい地域だとかもあると思うんですけども、その支援というのは具体的にどのように今後されていくというおつもりでしょうか。

(答) そこは、そういう地域で皆さん方の御意見等もよく伺って、そしてできるだけそういうところにも拠点のようなものをつくって、人が戻ってくるような足掛かりをしっかりとつくっていきこうということで進めていきたいと思えます。そういう意味で是非地元の市町村の方たちも、自分たちのふるさとを自分たちで立ち上げるんだと、そのためには国もこういうことをやってくれということ、こういった拠点構想の中で打ち上げてほしいなというふうに思っております。

(問) 関係市町村長の皆さんに今回の方針を説明しながら、予算ですとか具体策を検討されていくということだと思うんですが、大臣はいつごろから始めていつごろまでに完了させたいというのは、今のところございますか。

(答) 直ちにこれは動き出しますよ。

(問) 間もなく。

(答) はい。

(問) 大熊町からの要望の中に、中間貯蔵の敷地分は、また別に除染して確保してほしいというような旨が、今日あったかと思うんですけども、そこについてのお考えは。

(答) そこに限らずいろいろな話は出てくると思えますから、そういったところは我々もできるだけ柔軟に受け止めて、それに沿った形でできるだけ努力をしていきたいというふうに思えます。

(問) まだそこら辺、具体的にこれからは。

(答) そうですね。そこだけじゃないと思うんです。いろいろ出てくると思うんです。

(問) そもそも論になってしまうんですけども、帰還困難区域というのは、あれだけ汚染がひどくて線量が高いということで指定をされたわけですよ。それからもうすぐ6年という中で、本当に人が住めるような状態にすることができるんでしょうか。

(答) それは、できるできないという議論以前に、ちゃんとやるんだというまず決意をしっかりと持って、そのためにまずどこからどういう手がかりで始めていくかということ、まず実行に移そうじゃないかということに尽きるんじゃないかなというふうに思えます。

(問) とにかくやると。

(答) そうです。

(問) できるできないではなくて、やるんだと。

(答) そうです。

(問) 今日の幹部会合の中の具体的な話は、何かトピックはありますか。

(答) いろいろ知事さんなどからもあったんですけども、今、各市町村のマンパワーといいますかそういったものが、ちょっと心配だなという感じがあります。だからそういう意味ではどうやってそれをしのいでいくか、もちろんいろいろよそからも応援ももらっていますけれども、今後はいろいろな仕事の仕方など、いろいろ工夫しながらやっていくことが必要じゃないかなという、そういうふうな議論が出ていました。

(問) つまりそれは職員の数ということですか。

(答) そうです。

(問) それは帰還困難区域の解除に向けてとはまた別ですか。

(答) それも含めて、いろいろな意味を含めてです。

(問) 全体の話になるんですか。

(答) はい。例えばこれから新しいイノベーション・コーストをつくるとか、いろいろ話があるでしょう。そういうときにも、果たしてそれだけの今のスタッフなりなんなりでできるんだろうかという問題とか、どうしても専門の人たちが少ないわけだから、どうやってそこをしのいでいくかということなのです。

(問) それは今後、国の省庁から直接送り込むようなことも。

(答) もちろんそれもあります。しかし、かといってその地元を立ち上げていくのは地元の人を中心なんだから、そこで市町村のスタッフもしっかりとやるぞということではないと、国から人ばかりやってもしようがないと思いますから。

(以 上)